

報告

第65回粘土科学討論会（島根大会）

笹井 亮*・藤村卓也*

*島根大学総合理工学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

第65回粘土科学討論会（島根大会）が令和4年9月7～8日の2日間、約3年ぶりに現地にて対面（一部、オンライン講演を含む）で開催されました。

新型コロナウイルスの影響に対する島根県と島根大学の対応の変化を見据えつつ、基本路線を現地での対面開催として、準備を進めてきました。残念ながら、当初開催を予定し、準備を進めてきた懇親会については、実施は可能と判断できたものの、席間の移動などが制限され、懇親会の主な目的である交流が十分に行えないことを理由に、8月13日の理事会で中止が決定されました。来年度の仙台では、従来通りに近い懇親会も開催されることを祈念するばかりです。

また会期直前に山陰へ接近するという台風11号の影響で、前日9月6日には多くの公共交通機関が運休・欠航する事態となり、多くの方々の現地入りが困難となりました。これに伴う対応として、9月7日の開始時間等を1時間遅らすことにさせていただきました。直前のお願いにもかかわらず、快くご対応いただきました座長や発表者の皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。幸い、現地への台風11号の影響はほとんどなく、初日の9月7日は晴天に恵まれ、無事討論会を開始することができましたのは、日本粘土学会の皆様の日ごろの真摯な研究活動の賜物と感じております。

さて、第65回粘土科学討論会では、小暮会長による会長講演、「粘土科学における最新の計算予測、現象理解の深化」と題したシンポジウム講演が5件、口頭発表40件、ポスター発表38件が行われました。参加登録者数は合計134名（オンライン講演者1名を含む）で、一般会員は正会員（共催学会員含む）72名、学生会員（共催学会員含む）17名、非会員一般が19名、非会員学生が26名でした。

討論会初日の9月7日は、台風の影響で開始時間を当初の予定より1時間遅らせ、受付を9時30分から行いました。久々の対面で不慣れな点もあり、受付がもたついた点はありましたが、皆様のおかげで一般講演開始時間までにはおおよそ受付を完了することができました。その後、10時30分から島根大学松江キャンパスの教養講義棟2号館のA会場およびB会場で一般講演が行われました。写真1は、対面で行われた講演会場の様子です。皆様には会場入り口での手指消毒とマスク着用を厳守いただき、久々の対面での発表議論がいつも以上に熱のこもったものになったように感じました。



写真1 講演会場の様子

12時30分からは小暮会長を議長として大学ホールにて総会が行われました。総会ではすべての議案が提案通り採択されました。総会終了後には各賞の授賞式が行われ、受賞者に小暮会長から賞状が手渡されました。令和4年度の受賞者は次の通りです。学会賞：笹井亮会員、奨励賞：渡邊保貴会員、早川崇之会員、技術賞：ソグエクレー株式会社、論文賞：万福裕造氏・藤原英司氏・武田良彦氏・佐藤努氏・成田尚宣氏・鈴木正哉氏・西方美羽氏・山田裕久氏・万福和子氏・金田由衣氏・矢板毅氏、田村堅志氏・山下浩氏・小暮敏博氏・森田昌敏氏・山岸皓彦氏・佐藤久子氏、学術振興賞：原田拓海氏、平出有吾氏。

13時30分からの理事会に続き、大学ホールで14時30分からは日本粘土学会会長で東京大学の小暮敏博教授より「粘土鉱物の電顕構造解析への道とその恩師たち」という題目の会長講演が行われました（写真2）。電子顕微鏡による粘土鉱物の構造解析に対する会長の熱い情熱と恩師の先生方とのかかわりに強く感銘を受けた貴重なご講演でした。

会長講演に続いて初日の最後の行事として、15時30分から大学ホールにて「粘土科学における最新の計算予測、現象理解の深化」と題したシンポジウムが開催されました。奥村雅彦氏による「粘土鉱物分子動力学シミュレーションの新展開：機械学習分子動力学法」、志賀正茂氏による「二酸化炭素-水-粘土鉱物三相界面系のメニスカスと水膜に関する分子動力学計算」、末原茂氏による「結晶軌道から眺めた粘土鉱物の化学結合」、佐久間博氏による「フレイドエッジサイトの構造モデル：分子



写真2 会長講演の様子

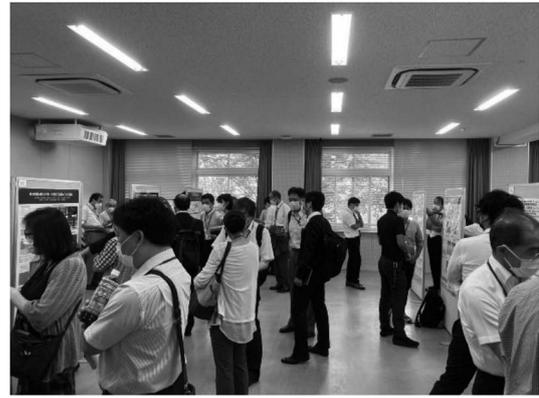


写真3 ポスター発表の様子

シミュレーションからの検討」, 館幸男氏による「地層処分における粘土バリアの間隙特性を考慮した核種移行モデルの開発」の5件の講演が行われ, その後総合討論が行われました。シンポジウムの内容や様子については, そちらの報告をご参照ください。

討論会2日目の9月8日は, 当初の予定通り, 9時30分から12時までと15時から16時までの2回に分けて, 初日と同じ2会場で一般講演が行われると共に, 教養講義棟2号館にて13時から15時までポスター発表が行われました。ポスター発表では, 入り口での手指消毒, マスクの着用に加え, ポスター間の距離を十分に取った配置で, 部屋の換気を十分に行うという感染対策をとり, 対面で実施しました(写真3)。対面でポスター発表を行うことが初めてという学生さんも多く, 非常に充実した議論が行われていました。学会の日常がようやく戻ってきたと感じることができました。

12時からは常務委員会が行われ, その中で第66回粘

土科学討論会は仙台で行われることが報告されました。次回の仙台ではハイブリッドでの開催が計画される予定と伺っています。

今回の第65回粘土科学討論会(島根大会)は, 新型コロナウイルスの感染対策を十分に施しつつ, 約3年ぶりに現地にて対面で開催することができました。懇親会の中止や直前に台風に見舞われるなどはありませんでしたが, すべての日程を大きなトラブルなく, 盛会のうちに無事終えることができました。これはひとえに現地松江に訪れてご参加いただいた方, 広告掲載でご協力いただいた企業8社の皆様, 開催にあたりご協力いただきました関係者の方と, 実務をこなしてくれた11名のバイトの学生のおかげです。すべての方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

来年は仙台での開催となります。来年こそは懇親会も開催され, 対面を基本とした新しい形の粘土科学討論が行われることを切に願っております。